

# いにしえの音色を現代に

沖縄の心の拠り所である首里城正殿が一九九二年に復元されました。その復元事業を機に首里城に関するさまざまな調査・研究が掘り起こされています。楽譜もなく、資料さえも十分ではない状態からの研究がスタートしました。いにしえの琉球王朝の文化、先人が残してくれたかけがいのない伝統を今に受け継ぎ、その美しい音色を奏でています。

## 御座楽・路次楽の歴史

路次楽は一五二二年に慶賀使として中国に渡った沢岷盛里が楽器とともに琉球へ持ち帰ったとされています。一六三四年の第一回目の江戸上りから路次楽は演奏され、一六五三年の第四回目の江戸上りから御座楽が始まりました。

その後一八五〇年の江戸上りまで二百年間に渡り宮廷音楽は続けられましたが、御座楽は明治時代の廃藩置県により伝承も絶えてしまい一度は完全に消滅しました。

## 御座楽・路次楽の現在

御座楽に関する現存資料は少なく、楽器は江戸上りの時に献上された現物が、徳川美術館(愛知県名古屋)と徳川博物館(茨城県水戸市)に現存しているのみです。首里城公園では、これらの現存楽器を基にした御座楽楽器の復元を行い、首里城南殿において完成した復元楽器の展示会も実施しました。路次楽は沖縄県の県選挙無形民俗文化財に指定されており、現在、首里、今帰仁村、浦添市、東風平町、石垣市などで保存継承されています。首里では、首里王府路次楽保存会を中心とする古典音楽家によって楽器、楽曲の復元が行われています。

## 江戸上りと宮廷楽器

江戸上りとは、薩摩の侵攻以降、琉球国中山王府が徳川幕府に対して送った使者をさします。使者には、宮廷楽器を演奏したり、琉球舞踊を踊る要員も含まれており、これらは將軍や幕閣の前で披露されました。それから中国と日本の文化が渾然一体となった琉球独自の楽器・芸能が形作られてきました。



沖縄県史ビジュアル版⑧ 近世②より転載

## 御座楽の楽曲

御座楽の楽曲は現在調査中のものが多く、現在分かっているものでは奏曲と唱歌の二種類に分かれています。主な奏曲は「万年春」「まんねんし」で、

主な唱歌は、「紗窓外」「さししょうがい」、「太平歌」「たいへいか」等でその他、三十曲ほどあるとされています。いずれも、祝い事や、めでたい宴での演奏が中心だったようです。

## 路次楽の楽曲

御座楽同様、路次楽も現在調査中のものが多く、路次楽の主な楽曲は、一段から五段までとされています。  
一段(頭更「トーク」)は、さまざまな儀式の始めに演奏します。  
二段(二更「ニーク」)は、一段の次に演奏します。  
三段(三更「サンク」)は、出立の時に演奏します。  
四段(三模様「サンボヤン」)は、退去の時に演奏します。  
五段(齊空公「ツッコンコン」)は、五節句祭日などに一段の次に演奏します。

## 首里の御座楽・路次楽保存伝承活動

首里での御座楽、路次楽の保存伝承活動は、首里王府路次楽保存会を中心に、首里高等学校吹奏楽部(路次楽担当)、赤田のみるくウンケー実行委員会の路次楽があり、主に首里で行われる祭やイベント等に参加しています。

## 首里王府路次楽保存会

首里王府路次楽保存会は路次楽と御座楽の保存伝承活動を行っており、会員は約二十名、首里文化祭、首里城の正月儀式等を中心に、精力的に活動しています。尚、保存会では随時会員を募集していますので興味のある方はご参加下さい。

観光功労賞を受賞され、伝統芸能を通して沖縄の観光発展に貢献している、首里王府路次楽保存会会長の阿波連本勇氏

お問い合わせ  
首里王府路次楽保存会  
沖縄県首里山川町1-1-17  
TEL (098) 884-6488



首里の町を練り歩く路次楽の行列



首里城正殿にて御座楽の演奏

## 【御座楽の楽器】

御座楽の演奏には、琴や三線などの弦楽器と銅鑼などの打楽器が用いられ、その楽曲の品格と優美さは日本本土の雅楽に勝るとも劣らぬとも言われています。

- ①銅鑼(トンロウ) 朱漆の枠に銅鑼が取り付けられています。ドラの音色がします。
- ②小銅鑼(シャウトンロウ) 朱漆の枠に銅鑼が付けられ、下に鼓がついています。
- ③新心(スイシン) 2つ青銅の鐘を打ち合わせて演奏します。
- ④三線(サンスエン) 三本の弦を弾いて演奏します。サンスンの原型とも言われています。
- ⑤管(クハン) 竹で作られた縦笛です。
- ⑥琵琶(ヒイハア) 朱漆・潤漆が塗られて、四本の弦を弾いて演奏します。
- ⑦二胡(ニコ) 二本の弦を弓で擦って演奏します。
- ⑧夜雨琴(ヤウキン) 金属の弦を撥(ばち)で叩いて演奏します。



※協力・楽器写真提供/首里王府路次楽保存会

## 【路次楽の楽器】

路次楽の演奏は荘厳な鼓吹奏であり、吹奏楽器を主とし、銅鑼や小太鼓とあわせて沿道でも注目も引くよう、御座楽の楽器に比べ大きな音を奏でます。

- ①横笛(ホウテウ) 竹で作られた横笛です。
- ②哨唎(ツヨナ) 銅と黒木で出来て、現代でいうチャルメラの一種です。
- ③銅角(ドウカク) 低い音を出すトランペットの一種です。
- ④喇叭(リーパー) 高い音を出すトランペットの一種です。
- ⑤両班(サンハン) 三枚の板をうち鳴らし演奏します。御座楽でも使われています。
- ⑥鼓(クウ) 革張りの小太鼓です。
- ⑦銅鑼(トンロウ) 青銅の鐘を木のバチで叩いて演奏します。



※協力・楽器写真提供/首里王府路次楽保存会

## 首里高等学校吹奏楽部(路次楽担当)

首里高等学校吹奏楽部(路次楽担当)の発足は平成九年で、部員は約三十名。毎年行われる首里城祭を中心に活動しています。路次楽の演奏は吹奏楽とは勝手が違うとのことで、首里城祭の二ヶ月前から、昼休み時間も利用し猛練習をしています。沖縄の伝統を後輩に引き継いでいきたいと若人ががんばっています。



首里高等学校



## 赤田のみるくウンケー実行委員会の路次楽

首里赤田のみるくウンケーは毎年、旧盆の前か後の日曜日に行われる伝統行事です。みるくウンケーの行列は、右手に大きな扇を左手に錫杖を持った「みるく」を先頭に路次楽隊が続ぎ町を練り歩きます。また、毎年十一月三日に行われる首里文化祭にも参加しています。



赤田のみるくウンケー実行委員会の路次楽隊